



## 新春さむやがトーク

### もったいないの心を語る

吉原健一郎さん・多田区長・嬉利恵さん  
(成城大学教授) (おはなしこぼこ会員)

**区長** 新年、明けましておめでとうございます。  
**吉原・嬉** おめでとうございます。  
**区長** 吉原先生は、「江戸学」という江戸時代を中心にした庶民の生活などを研究されています。また、嬉さんはボランティアとして、子どもたちに本などを読んで伝える「読み聞かせ」活動を行っています。今日は、お二人から様々なことを伺いたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。  
**吉原・嬉** よろしくお願ひします。  
**嬉** 江戸川区には一之江名主屋敷など江戸時代を偲ばせる建物があります。ただ、現在では都市化が進み、昔の姿を想像することが、なかなかできないのですが、当時の江戸川区はどのような様子だったのでしょうか。  
**吉原** 江戸川区一帯は田園地帯で、米や野菜を江戸市中に供給していました。また、梨などの果物も栽培していたようです。それと、蓮ですね。蓮田もたくさんありました。  
**区長** 今でも小松菜の栽培は盛んですが、そうした物資は舟を使って運んでいたそうですね。ところで、新川は、かつて塩を運ぶ道筋だったという話を聞いたことがあります。塩はどの辺りでつくられていたのですか。  
**吉原** 行徳で良い塩が生産されていたようです。徳川家康が江戸に入った頃から、いざというときのために、この水路をつくりました。小名木川から新川を経て、江戸川から行徳へ。最後は、木更津まで通じていました。  
**区長** 行徳の塩だけではなく、東北や北関東の物資も利根川から江戸川を下り、このルートを使って江戸に運ばれていたとも聞きます。江戸川は、地方から江戸へ向かう道だったといえますね。  
**吉原** 江戸の人は、江戸川区でとれる米や野菜、そして運ばれてくる塩などの物資の恩恵を受けて生活していたのです。また、区内には将軍が鷹狩りする場所があったので、厳しく管理され、鳥などの捕獲はできませんでした。将軍の権威で自然を大切にしていたのですが、鶴などの大きな鳥もたくさんいて、いい風景だったでしょう。  
**嬉** 将軍にとって、この辺りはとても重要な場所だったんですね。

(2面へつづく)





# 感謝の気持ちが生み出す

## 「もったいない」の心

### 江戸川区長 多田正見



(1面からつづく)

### 江戸時代は、リサイクル社会

**区長** 今、ケニアのワンガリ・マタイさんが、日本には「もったいない」というすばらしい言葉があると、世界に広めてくれています。この「もったいない」という言葉は、昔はよく使われていたが、江戸時代はものを最後まで使い尽くすという社会システムだったそうです。

**吉原** 江戸時代の人々は、ものをとても大事にしていました。なぜなら、資源が限られていることをよく知っていたからです。そうした状況で生活していくにはどうすればよいかと考え続けられていたのが、江戸の町は、無駄なものはないというくらいリサイクルが進んでいたのです。

**区長** 私たちには現在、環境問題を発端として、世の中のシステムや考え方を考えていかなければいけないという課題があります。その解決のためには、「もったいない」という言葉が意味する生活に向かっていくべきではないかと、行政も民間も努力しています。詳しく江戸時代の「もったいない」について教えてもらえますか。

**吉原** 様々な面で、江戸時代は「もったいない」の

心があふれていました。特筆されるのは、衣類です。着る物は、一つの資産といってもいいくらい重みを持っていました。古くなったもの、商品として立派に流通していましたが、例えば東北地方では、江戸の古着に端切れを縫ぎはぎし、刺し子というきれいな着物に仕立て直して使っていました。最後には、おしめや雑巾にして使い切っています。

**区長** 母は明治の生まれですが、私が中学・高校生の頃は、着物を洗い張り(着物を解いて洗い、のりづけをして板などに張って干すこと)して、仕立て直して使っていました。その当時の主婦であれば、誰でもそうしていたと思います。

**嬉** 私自身は仕立て直しの経験はありませんが、祖母は、私に編んでくれた毛糸のセーターを成長に合わせて、毎年、袖や裾を縫ぎ足してくれました。継ぎ目のところの色がどうしても変わりますが、境目がわからないように、花の飾りなどをその上につけてくれました。今でもそのセーターはしまっており、このセーターを見るたびに、そのときの祖母とのやり取りや、それをそばで見ていた母の姿などが、鮮やかに蘇ってきます。ずっと心の引き出しにしまっている大切な思い出です。

**区長** 江戸時代には、今では想像もつかないようなリサイクル業者がいたと聞きますが…。

**吉原** 江戸時代は紙屑が貴重品で、町中を歩いて、落ちてくる紙屑を集める人がおり、紙屑を買って取って商売する紙屑屋がいました。集められた紙屑は浅草紙、今でいう再生紙になります。浅草紙の名前は、浅草周辺で紙を再生していたところからついたようです。この浅草紙を紙屑からつくる方法を編み出した人は、江戸川沿いの人らしいです。

**区長** 驚きましたね。ほかにはどんなリサイクル業者の人がいたのでしょうか。

**吉原** 割れた茶碗を接ぐ商売もありまし



多田区長(中央)と吉原さん(左)、嬉さん(右)が会話している様子。

た。都内の遺跡を発掘すると、接いだ跡がわかる茶碗のかけが出てきます。また、穴があいた鍋や釜を修理する錆かけ屋もいましたが、今では見かけなくなりましたね。

**嬉** 私も子どもの頃、鍋を太陽に透かして穴を見つけて、修理してもらったことがあります。

**区長** ところで書物によると、当時の江戸に来た外国人は、町がとてもきれいなことに驚いたそうです。

**吉原** 肥料としてし尿が循環していたので、当時のパリやロンドンなどの状況に比べ、江戸の町は清潔できれいな都市だったといわれています。下水道が普及する前のヨーロッパでは、衛生問題に悩まされていたのです。

**区長** 今は意識的に「まちをきれいにしましょう」「たばこのポイ捨てはやめましょう」など、美化運動やマナーアップキャンペーンを行っています。江戸時代はこのような運動をしなくてもきれいだっただけです。

**吉原** 道を含めたその両側全体が一つの町で、道路管理は、そこで暮らす人々の責任でした。「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、自分たちの家の前の道は必ずきれいに清掃していました。

**嬉** 生活に水道は欠かせません。日本は水に恵まれていますが、江戸という大都市の水を賄うのは、とても大変なことだったと思います。

**吉原** 東京湾岸のような低地帯の場合、井戸ではあまり良い水が出ません。そこで、江戸城内で余った水を汲んで樽に入れ、飲み水として売られる水売りという商売がありました。

**区長** 水は、江戸の町の水道としてつくられた玉川上水の水です。

**吉原** 玉川上水は江戸城に引き込まれ、将軍も使っていたので、江戸っ子は、その水を将軍の水として、たいそう自慢にしていたようです。また、多摩川や江戸川の水もきれいで、茶の湯として使われていました。料理屋に入った客がお茶づけを注文したところ、いつまでたっても出てこないのです。どうしたのだと聞いて「今、多摩川へ水を汲みに行っています」という笑い話もあります。

**区長** 江戸川五丁目にある熊野神社には、この付近の江戸川の水が茶の湯として大変良い水だということで、松尾芭蕉が詠んだ「茶水汲むお

るはずです。

**嬉** 形のないものから、何かを作っていくこと、そして、作ったものを大事に使うことを、私は次の世代の子どもたちに伝えていきたいと思っています。

**区長** 私は小学4年生のときに終戦を迎えました。その頃は、着る物も食料もなく、とても貧しかったのですが、みんなが貧しいので、特にそれを悲しいと思わず、当たり前と受け止めていたような気がします。さつまいもを生でかじってみたり、いなごを食べたり、いろいろなことをしました。私の人生の中でこの体験は、今考えるとプラスであったと思います。厳しい時代でしたが、おなかをすけば、友達も同じ状況です。お互いの気持ちがわかりました。貧しい中で、本当の豊かさとは何かを感じられる心を養うことができたと思います。

**吉原** ものが有り余ってしまうと、人間の感性は衰えます。ものがなくても、いろいろな工夫したり、お互いに分け合ったり、助け合ったりすることが、生き方を勉強するために必要です。現在、いじめが問題になっていますが、私が子どもの頃は、いじめることより、仲良く遊んだり、勉強したりする時代でしたね。学校帰りに木の破片を川に入れて、どれが早く流れるかと、競争しながら帰りました。テレビもなければ何も無い時代ですから、そういうことが楽しみでした。

# ものの大切さ、工夫して遊ぶ楽しさを、子どもたちに伝えたい



### 嬉 利恵さん

1957年生まれ。図書館を中心に手作りの人形劇・紙芝居などを上演するボランティア「おはなしこぼこ」の一員として活躍中。えどがわエコセンターのもったいない講演会などにも参加。夫と子ども1人の3人家族。西葛西在住。

**区長** 私たちには現在、環境問題を発端として、世の中のシステムや考え方を考えていかなければいけないという課題があります。その解決のためには、「もったいない」という言葉が意味する生活に向かっていくべきではないかと、行政も民間も努力しています。詳しく江戸時代の「もったいない」について教えてもらえますか。

**吉原** 様々な面で、江戸時代は「もったいない」の心があふれていました。特筆されるのは、衣類です。着る物は、一つの資産といってもいいくらい重みを持っていました。古くなったもの、商品として立派に流通していましたが、例えば東北地方では、江戸の古着に端切れを縫ぎはぎし、刺し子というきれいな着物に仕立て直して使っていました。最後には、おしめや雑巾にして使い切っています。

**区長** 母は明治の生まれですが、私が中学・高校生の頃は、着物を洗い張り(着物を解いて洗い、のりづけをして板などに張って干すこと)して、仕立て直して使っていました。その当時の主婦であれば、誰でもそうしていたと思います。

**嬉** 私自身は仕立て直しの経験はありませんが、祖母は、私に編んでくれた毛糸のセーターを成長に合わせて、毎年、袖や裾を縫ぎ足してくれました。継ぎ目のところの色がどうしても変わりますが、境目がわからないように、花の飾りなどをその上につけてくれました。今でもそのセーターはしまっており、このセーターを見るたびに、そのときの祖母とのやり取りや、それをそばで見ていた母の姿などが、鮮やかに蘇ってきます。ずっと心の引き出しにしまっている大切な思い出です。

**区長** 江戸時代には、今では想像もつかないようなリサイクル業者がいたと聞きますが…。

**吉原** 江戸時代は紙屑が貴重品で、町中を歩いて、落ちてくる紙屑を集める人がおり、紙屑を買って取って商売する紙屑屋がいました。集められた紙屑は浅草紙、今でいう再生紙になります。浅草紙の名前は、浅草周辺で紙を再生していたところからついたようです。この浅草紙を紙屑からつくる方法を編み出した人は、江戸川沿いの人らしいです。

**区長** 驚きましたね。ほかにはどんなリサイクル業者の人がいたのでしょうか。

**吉原** 割れた茶碗を接ぐ商売もありまし

えました。その頃は、着る物も食料もなく、とても貧しかったのですが、みんなが貧しいので、特にそれを悲しいと思わず、当たり前と受け止めていたような気がします。さつまいもを生でかじってみたり、いなごを食べたり、いろいろなことをしました。私の人生の中でこの体験は、今考えるとプラスであったと思います。厳しい時代でしたが、おなかをすけば、友達も同じ状況です。お互いの気持ちがわかりました。貧しい中で、本当の豊かさとは何かを感じられる心を養うことができたと思います。

**吉原** ものが有り余ってしまうと、人間の感性は衰えます。ものがなくても、いろいろな工夫したり、お互いに分け合ったり、助け合ったりすることが、生き方を勉強するために必要です。現在、いじめが問題になっていますが、私が子どもの頃は、いじめることより、仲良く遊んだり、勉強したりする時代でしたね。学校帰りに木の破片を川に入れて、どれが早く流れるかと、競争しながら帰りました。テレビもなければ何も無い時代ですから、そういうことが楽しみでした。

### エコセンターを中心に「もったいない運動」を展開

**区長** 吉原先生や私が子どもの頃は、ものを大切に扱い、工夫しながら、自ら楽しみを生み出していたと思います。今、そのような時代に戻



### 吉原 健一郎さん

1938年生まれ。成城大学文学部教授。平成16年の江戸川総合人生大学開学当初から、共通基礎科目「江戸・下町学」の科目編成と講師を務める。主な著書に「江戸の情報屋」「江戸の銭と庶民の暮らし」など。江東区在住。

# 歴史から知恵を学び 共に活かす取り組みを





シートでも手軽に楽しめる遊びができます

嬉 ひとつと手をかけることが大事ですね。工夫してごみを増やさなければ、

区長 「もったいない」という言葉には、私たちに強く訴えかけるものがあります。この言葉には、感謝の気持ち

環境を守り、心の豊かさを 実感できるまちに

嬉 地球温暖化の問題は、将来にどんな影響があるのかをイメージしにくいものですが、多くの方が交流会に

区長 エコセンターでは、昨年「もったいないアイデア」の募集も行っていましたね。

嬉 ひと手間を惜しまず、ちよっと手をかけることが大事ですね。工夫してごみを増やさなければ、

区長 「もったいない」という言葉には、私たちに強く訴えかけるものがあります。この言葉には、感謝の気持ち

嬉 地球温暖化の問題は、将来にどんな影響があるのかをイメージしにくいものですが、多くの方が交流会に

区長 エコセンターでは、昨年「もったいないアイデア」の募集も行っていましたね。

その分、川や海が汚染されません。地球温暖化といわれていますが、ささいなことでも、みんなが守って、みんな

休日急病当番医

- 診療時間⇒9時～17時(急病のみ受け付け。往診は不可)。
- 外科は救急病院(「平成18・19年度くらしの便利帳」170ページ参照)をご利用ください。

1月2日

- 内小児科 廣見医院 中央2-28-18 ☎(3651)5376
- 木田医院 一之江7-34-5 ☎(3651)3214
- 藤医院 西小岩3-28-14 ☎(3672)9333

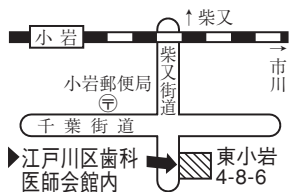
1月3日

- 内小児科 久田医院 平井1-27-7 ☎(3681)0081
- まつかわハートクリニック 一之江7-37-17 ☎(5661)0810
- 松本1-11-3 ☎(3653)0850

休日歯科応急診療

1月2・4・7・8日

- 診療時間⇒9時～17時
- 休日専用電話☎(3672)8215]に予約のうえ、16時30分までにお越しください。



1月4日

- 内小児科 葛西中央病院 船堀7-10-3 ☎(3680)8121
- 岡戸医院 南小岩6-20-5 ☎(3657)1004
- 恵仁堂医院 東小岩4-10-5 ☎(3657)4416

1月7日

- 小 千葉クリニック 北葛西1-14-23 ☎(3680)4035
- 桂医院 平井1-17-4 ☎(3682)3035
- 安部診療所 一之江4-7-4 ☎(3652)0234

1月8日

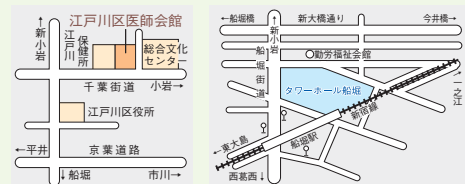
- 内小児科 きむらクリニック 西一之江3-12-19 ☎(3674)6600
- 沢医院 中葛西1-31-53 ☎(3680)8765
- 飯塚内科医院 中葛西3-16-6 ☎(3688)0395

休日応急当番接(整)骨院

- 施術時間⇒9時～17時
- 1月2日 鈴木接骨院 大杉5-1-19 ☎(5607)4183
- くまがい接骨院 南葛西5-7-6 ☎(3689)7699
- 1月3日 一沢接骨院 東葛西5-39-17 ☎(3686)6555

年末年始 休日急病診療所

目 1月4日(木)まで 曜 9時～17時
診療科目 小児科・内科
場 江戸川区医師会館☎(3655)5151/医師会医療検査センター(タワーホール船堀6階)☎(5676)7799=開設時間内のみ



※健康保険証・医療証を持参してください。

★夜間・深夜急病診療

時 21時～翌朝6時 ※年中開設。
診療科目 小児科・内科
場 江戸川区医師会館☎(3651)5270

江戸川区成人式

目 1月8日(祝) 場 総合文化センター
昭和61年4月2日～62年4月1日に生まれた方
式典開始時間
区民課、小松川・小岩・鹿骨事務所管内にお住まいの方⇒11時30分(11時開場)